

登録基幹技能者の更なる普及について

1. 「平成24年度 基幹技能者の評価・活用に関する調査事業」の具体的な作業

- ・建設業における各職種ごとの登録基幹技能者の立場や役割、評価のされ方等の実態調査
(元請企業、公共発注者(国・都道府県)、有資格者および雇用企業へのアンケート・ヒアリング調査、工事成績資料の分析)
- ・登録基幹技能者の配置効果(活用におけるメリット等)を抽出
- ・建設業界の内外への効果的なPR方法を検討
- ・登録基幹技能者の処遇改善や最上級の技能労働者としての位置付けの明確化などについて検討

2. 工事成績の分析やアンケート結果で見えてきた配置効果(メリット) ※分析中

(1) 工事成績

平成22年度及び平成23年度の完成工事(土木)において、工事成績の全体平均と比較した場合、登録基幹技能者が配置された工事は**安全対策・出来形・品質・創意工夫**の評定項目において配置効果があるのではないかと推測される。

	総合評定 点の平均	右の項目(① ~⑧) の合計点	登録基幹技能者との関連が深い評定項目(平均点)							
			施工状況			出来形および出来ばえ			⑦工事特性	⑧創意工夫
			①施工管理	②工程管理	③安全対策	④出来形	⑤品質	⑥出来ばえ		
登録基幹技能者が 実際に配置された工事 (24件)	77.0	64.2	10.7	6.8	7.3	11.4	12.2	7.1	4.4	4.4
H22完成工事 (8,184件)	76.3	62.9	10.8	6.8	7.1	11.2	11.7	7.2	4.3	3.9
H23完成工事 (10,592件)	76.3	62.0	10.8	6.8	7.1	11.2	11.8	7.1	4.3	3.9

(2) アンケート結果

- 登録基幹技能者を資格要件として優良職長手当制度を導入している大手ゼネコン(6社)：評価項目として「**施工品質**」、**安全性**、**作業工程**等が挙げられた。
- 元請からの評価：「技能者の適切な配置、作業方法、作業手順の構成」や「技能者の指示、指導」、「他の職長との調整」の業務を行い、「**品質**」、「**工程**」、「**安全**」について「元請のサポート役」として評価を受けている。
- 雇用企業の配置方針：「**知識**」、「**元請との調整・提案**」、「**安全**」、「**作業管理**」、「**品質の確保や向上**」、「**難易度が高く、連絡調整・安全管理が重要な工事**」に優先的に配置

※ヒアリング調査については、現在実施中。

3. 公共発注者(国)による配置効果の検証

(1) 北陸地方整備局

○平成23年度の「新潟法務総合庁舎耐震改修工事」において、工事終了後に「監理技術者」に対してアンケート調査を実施し、登録基幹技能者からの施工法に関する提案が「品質確保」に繋がった事例や、一般の技能者との違いとして「経験が豊富であり作業に対し工夫がみられた」ことが確認された。

(2) 関東地方整備局

○登録基幹技能者を加点对象とする平成22年度の総合評価落札方式工事の応札者（対象20社：回答12社）に対し、「品質向上」、「コスト低減」、「工程管理」の項目について配置効果のアンケート調査を行った結果、「品質向上」と「工程管理」の項目で配置効果が期待できるとの回答が得られた。

4. 登録基幹技能者制度のPR方法について(検討中)

第2回 登録基幹技能者 評価・活用委員会(H25.2.6)での主な意見

○【有資格者の増加】

- ・有資格者自身のPRや現場でのPRのため、各職種毎のマーク作成は重要である。
- ・「更新者」のマークについて、既に検討を行っている講習実施団体もある。
- ・ヘルメットに貼付する「シール」は、既に多数のシールが貼られており目立ちにくい場合もあるが、喜んで貼る技能者が多い。ヘルメットには傷が付きやすいなど課題も残るが、「シール」以外のPR方法についても協議会等で更なる検討が必要。
- ・「年間講習実施予定一覧」の作成については、技能者からゼネコン側にも問い合わせがあるので、あると非常に便利。

○【その他】

- ・業界に求められる登録基幹技能者の適正な有資格者数について、業界側も発注者側も具体的に把握出来ていないのが実態であるため、有資格者数のニーズに関する調査は非常に有効であると考えられるが、調査方法など検討すべき課題が多い。